

全人的医療支援カリキュラム

日本医師会の生涯教育指針報告

総合医の養成に漢方教育組み入れを検討

今月5日（金）、慶應義塾大学医学部漢方医学センター（渡辺賢治センター長）とNPO健康医療開発機構（武藤徹一郎理事長）との共催により開かれた「第2回21世紀漢方医学フォーラム」は「総合医の漢方教育を考える」をテーマに4人の演者による講演と総合討議が行われた。

他院への適切な紹介と継続診療を選べる医師の養成も

演者のうち、日本医師会常任理事の飯沼正明氏は、日本医師会が行ってきた生涯教育カリキュラムを今般改定し、新たに認定制度を創設するこ

とを報告した。その背景には、昨今の医療事故や過度の専門性により対応できる患者の幅を狭めているなど、医療現場に問題点が生じている点にあ

ることが改めて述べられた。

カリキュラムの改定は、これらを解決する目的でとられた方策だ。そ



主催者側、渡辺賢治センター長

の中に漢方教育を盛り込むことで、慢性疾患など継続的なケアが必要な場合にも対応できるようにすると飯沼氏は述べた。具体的には、カリキュラムの目標に到達した医師を、「地域医療、保健、福祉を担う幅広い能力を有する医師」として認定する制度を創設。カリキュラム案は、各都道府県

医師会の理事などで構成される「生涯教育推進委員会」（福井次矢・聖路加病院院長）が関連3学会（日本プライマリ・ケア学会、日本家庭医療学会、日本総合診療医学会）のほか複数のオプザーバーの学会などの協力を得ながら国民の要請に応える方向で作成される。

このカリキュラム案は年内の完成を予定しており、完成次第「日医雑誌」に同封して会員全員に配布するという。タイトルは「生涯教育カリキュラム（案）～総合診療医の養成を目指して～」。

一般目標は「頻度の高い疾患と傷害、それらの予防、保健と福祉など健康にかかわる幅広い問題について、わが国の医療体制の中で適切な初期対応と必要に応じた継続医療を全人的視点から提供する総合診療医としての態度、知識、技能を身につけること」としている。行動目標としては①医療専門職としての使命、②全人的視点、③医療の制度と管理、④予防・保健、⑤地域医療・福祉

◆「引き出しを増やす」一方で「漢方投薬には十分な漢方医学の知識を」

総合討議では、パネリストから「患者のためのツールとして選択肢は一つでも多いほうがいい」とする意見の一方で、「漢方医学の知識を十分に身につける教育を受けるこ

とで、たとえば妊産婦でも服用できる方剤の投薬が可能になるなど、真の有用性を発揮する」など教育の照準をどこにあわせるかについても、さまざま温度差が感じられる意見交換があり、今後の方向性が注目される。（2面に発表演者・演題）